

1 サービスのしあいが 社会を支える

前章では、お互いに社会生活を営んでいるのだという自覚をしっかりとつことの大切さについて述べました。

それでは、そうした社会人としての自覚をもちつつ、私たちは日々の生活の中でどのように行動していけばよいのでしょうか。私たちが社会人として実際に果たしていくべき役割、責任には、どのようなものがあるのでしょうか。

いろいろなことが考えられますが、やはりまずあげられるのは、他人に迷惑をかけるような自分勝手な言動は慎むということでしょう。社会生活の中で、お互いがそれぞれに勝手なことをして迷惑をかけあっていたのでは、世の中はギクシャクし、さまざまな混乱が生じてきます。ですから、他人に迷惑をかけない、自分勝手を慎むということが、社会人の責任の最も基本的なものです。

しかし、それだけで十分かといえば、決してそうではありません。お互いの社会生活を向上させていくためには、それに加えて、一人ひとりが社会に対して何らかのプラスになるように努めていくことがどうしても必要です。いい換えれば、お互いが他に対してサービスをしていくということです。

すでに述べたように、私たちは一人では生きていけません。お互いに力を寄せ合い、それぞれの働きを交換しあってはじめて、それぞれの生活を営み、人生を歩んでいくことができるわけです。これはつまり、他の人びとからのさまざまなサービスを受けているということです。

もちろん、自分で汗を流して働いて得た収入で生活し、活動しているのですから、他人のサービスというより、自分の力で生きているという考え方もできるでしょう。けれども、いくらお金をもっていても、相手が売ってくれなければ買えません。また、たとえば地下鉄がまだ通っていないところでは、いくら地下鉄の便利さを利用したくても、それはできない相談です。お金があっても、必要なものを手に入れられない場合はたくさんあるのです。

そういうことを考えてみると、お互いが必要なものを手に入れて、日々の

生活、活動といったものをスムーズに快適に営んでいくためには、やはり他の多くの人びとの働き、サービスというものが十分にならないということがわかります。このことをお互いにまず正しく理解し、他の人びとから得られるサービスに対して、感謝の気持ちをもちあうことがきわめて大切でしょう。

松下幸之助 人生の知恵

④

感謝の心を



幸せを得ようと思えば、まず感謝の心が必要だと思えますね。人間とは妙なもので、同じことをしてもらっても喜ぶ人もあれば喜ばない人もある。いや、喜ばないどころか不平を感じる人もありますわな。たとえば、子どもでもね、お母さんが朝起こしてくれる、それを、ああ、お母さんが気をつけて起こしてくださったんだと喜びを感じる子どもと、うるさいなと思う子どもと、二通りあると思うんです。

どちらの子どもが幸せでしょうね。やはり、前者だと思います。お母さんの立場から考えても喜んでもらえましょうし、また子どものほうからいっても、“お母さん、ありがとう。私ももっと早く自分で起きなければならなかったのに……”というように、ことばに出さなくても感謝をする、そういう心がもてればその子どもは幸せですよ。また、そこに二人の心が通いあうのですな。

人間の幸せはみずからの心の中にあるとよくいいますね。ぼくもそれは一面の真理だと思います。

(松下幸之助「人生談義」PHP研究所)

